

教師、親、生徒、学生、誰でも気軽に参加でき、明日の教育や子育てに役立つ研究集会

## 2018年日本生活教育連盟第70回夏季全国研究集会(大阪集会)

主催 日本生活教育連盟 日本生活教育連盟第70回夏季全国研究集会実行委員会  
後援 大阪府教育委員会 寝屋川市教育委員会

**研究テーマ なかまをつながり、未来をひらく～多様性をみとめあい、命がやく学びを～**

**日時 2018年8月4日(土)～8月6日(月)**

**研究会場 大阪電気通信大学 寝屋川駅前キャンパス**

〒572-0837 大阪府寝屋川市早子町12-16 TEL 072-824-8900

**開会全体会 8月4日(土) 13:00～15:30**

開会全体会会場は アルカスホール(寝屋川市立地域交流センター)

〒572-0837 大阪府寝屋川市早子町12-21 TEL 072-821-1240

☆**シンポジウム** テーマ「**つながりあって 子どもをまもる**」～子どもたちの居場所をみんなで～

シンポジスト 重江良樹(映画「さとにきたらええやん」監督)  
辻 まちこ(くまとり子どもレストラン運営・大阪綴り方の会)  
藤本政則(社会福祉法人 立正学園統括施設長 立正学園園長  
児童家庭支援センター虹の丘センター長)

川口慎司(大阪府中学校教員・日生連大阪サークル)

コーディネーター 山口隆氏(大阪教育文化センター)

※同日、午前に映画「さとにきたらええやん」上映会も行います。

☆**基調実践報告**「**発達の主人公は子ども ～出会い つながって のびていく～**」

井関美季(日生連大阪サークル 元支援学校教員)

### 未来をひらくために多様さをいかして学び合いましょう

日本生活教育連盟第70回夏季全国研究集会

実行委員長・大阪青山大学教授 久田 敏彦

日本生活教育連盟(日生連)は、1948年にコアカリキュラム連盟として発足して以来、民間教育研究サークルの老舗的存在として実践・交流・研究を重ねてきました。手弁当で、理論と実践をしっかり結びつけて、そして自由闊達に、生活教育を中心に探究してきました。毎年、夏季全国研究集会を各地で重ね、教えれば、今年で70回目という節目を迎えます。

この節目の研究集会は、大阪で開催させていただくこととなりました。大阪の実行委員会が主催するのは、5回目になります。全国のみなさんにつどっていただき、大阪でゆっくりといねいに学び合い、つながりあえるよう着々と準備しておりますので、どうぞ多くの方々にご参加いただけますようお願い申し上げます。

「資質・能力」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」など、これからの教育のキーワードが多く語られるようになりました。その中身をどう考え、それをどのように具体化していくかが問われています。そのさい、やはり原則は「はじめに子どもありき」を大切にすることではないでしょうか。それは、のびきならない生活現実のなかで生きている子どもたちの、それにもかかわらずそのなかに確かにある人間的自立への願いを励まし実現していく教育を大切にするというモットーであります。この原則を生かすためには、子どもたち相互や子どもたちと教師のつながりはもとより、関係する人々とも広範につながっていくことがこれまで以上に必要となっています。大阪集会では、子どもと教育に関わる多様な方々との共同が見通せ、お互いの多様性を認め合いながら、子どもの生活と学びにおける主体性を育て人間的自立を励ますにはどうしたらよいかについて大いに学び会えるような集会にしたいと思います。各地の実践交流や是非聞いてみたいと思われている各講師の講座ともども、どうぞご期待下さい。

若い教師もベテランも、そして保護者も子育て関係者もつどって、あらためて教育の未来に確信がもてるような集会にしていきたいと思います。大阪でお会いできることを楽しみにしています。

# 日程

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
<b>3日</b> (金)								拡大常任 委員会	分科会代表 世話人会				
<b>4日</b> (土)		受付	映画観賞会 「さとにきたらええやん」 場所：アルカスホール	昼食	開会全体会 場所：アルカスホール		移動	分科会① 場所：大阪府立大学キャンパス	移動	会員総会 (大学内)			
<b>5日</b> (日)	受付	分科会②		昼食	分科会③		移動	生活教育講座 文化活動実技講座	移動	レセプション (大学内)			
<b>6日</b> (月)	受付	分科会④		移動	閉会 全体会								

**開会文化行事 8月4日(土) 10:00~12:00 アルカスホール**

## 映画 「さとにきたらええやん」

大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で38年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子、そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきました。本作は「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながらともに立ち向かう姿を追ったドキュメンタリー。午後のシンポジウムには監督の重江良樹さんも登場します。

**生活教育講座・文化活動実技講座 8月5日(日) 16:00 ~ 18:00**

- |                    |      |                   |
|--------------------|------|-------------------|
| ①記念シンポジウム「希望を紡ぐ教育」 | 行田稔彦 | (和光大学／日生連委員長)     |
| ②子どもが見えてくる実践の記録    | 竹沢 清 | (あいち障がい者センター)     |
| ③子どもが喜ぶ手作り遊び工作     | 鬼頭正和 | (愛知県立大)           |
| ④みんなでつながる教室での遊び    | 村越含博 | (北海道小学校教員)        |
| ⑤子どもの意欲を引き出す理科実験   | 谷 賢一 | (大阪健康福祉短期大学非常勤講師) |
| ⑥教室でいきるマジック        | 玉田 豊 | (京都府小学校教員)        |

【日生連結成70周年記念シンポジウム】生活教育講座①の概要

テーマ：私たちの教育実践が拓く「希望を紡ぐ教育」

学力テスト体制の中で「教育の貧困」化が進んでいる。子ども・親・教師・地域の関係が崩れ、子どもたちの苦悩が広がっている。しかしその中で、生活教育に集まる教師たちは子どもと正面から向き合って「希望を紡ぐ教育」に挑んでいる。シンポジウムでは、教育実践の主体者である5人の教師が、自らの実践をもとに、時代を拓く教育を語り合う。

**閉会全体会 8月6日(月) 11:30 ~ 12:30**

**講演「多様性を認めあってつながり、子どもの主体的な生活と学びを創造する」**

久田敏彦（大阪青山大学教授/第70回夏季全国研究集会 大阪大会実行委員長）

分科会

8月4日(土) ①16:00~18:00

8月5日(日) ② 9:30~12:00/③13:00~15:30

8月6日(月) ④ 9:30~11:20

分科会		分科会の研究テーマと予想される討議の柱	世話人 (太字は代表)
1	ことばと教育	日本語を楽しみ深め認識・内面・表現・関係を豊かにしていく教育 ①ことば・国語科教育をめぐる各地の状況と各自の問題意識 ②日本語を楽しみ深め認識・内面・表現・関係を豊かにしていく国語科の授業 ③全ての学校教育活動、地域活動や家庭における認識・内面・表現・関係を豊かにしていく言語活動(学級討論・自由作文・発表・読書・演劇など) ④作文や発言の中から子どもの表現と心を読む ⑤子どもの求めることばの教育のあり方を考える	<b>鎌倉 博</b> 金田一清子 桑原英代 岡村保子 小川貴弘
2	算数数学	子どもと拓く算数・数学 ①学びを作り出す基礎基本の力とは何か ②子どもとともに算数・数学の学びを創る ③学びあいの中での認識の変化 ④生活と算数の結びつきと教育課程 ⑤学びを作り出す指導法と教具 ⑥確かな学びと少人数指導のあり方	<b>関 忠和</b> 入沢雅代 松村綾佳 渡辺恵津子 行田稔彦 中村 潤
3	社会科	子どもと共に社会を学び、希望を育む ①その実践で子どもが知りたいこと・学びたいこと ②討論・交流の場の設定と共通課題・個人課題の誕生 ③実践で生まれた学びと生きる喜び・希望 ④子どもの主体的な学びを支える教師の指導性	<b>北川 茂</b> 金森俊朗 外山英昭 松村一成 加藤博之 宮丸賢一 杉見朝香
4	生活科と総合学習	学び合いや協同学習、アクティブラーニング、カリキュラムマネジメントを組み換えるような実践と視点を ①子ども達も教師や大人たちも意欲を沸かせ、課題を探究し合い、ともに創り出せる活動を ②子ども達の生活と地域・社会の問題(環境・健康・平和・国際など)が連続する点をとらえ、ひとまとまりの活動を組む ③生活・活動を広げ深めるためにも、教科、科学、文化やその研究を存分に組み合わせる ④全体を通じてどんな学力・能力が養われるかを、私達の言葉とエピソードで表現する。(単元習作ワークショップ)	<b>金馬 国晴</b> 村越含博 迫田 実 和田 仁
5	小学校の生活指導(人間関係づくり)	親と子と教師が「安心・自信・自由」でつながれる学級・学校 ①「不登校・登校拒否・いじめ・暴力」等に見られる子どもたちの疎外状況を克服する指導 ②「荒れる子」「キレル子」の内面と背景を大切にしたい生きる意欲を育てる集団づくり・文化活動 ③父母・地域の人々・職場の同僚との共同による学級・学校づくり ④子どもと教師・父母が本音を出し合い、遊び心でつながる学級・学校づくり	<b>中里明雄</b> 宮城健太 河野修三 伊藤邦夫 阿部 賢 宮城アケミ 阪本 智 喜舎場美也子
6	乳幼児期の教育	乳幼児期から小学校低学年の子どもの発達を支える実践は～こどもの成長にとって根っこになるこの時期、幼・保・小・大そして親と子どもを取り巻く人とつながって、つくる分科会～ ①乳幼児期から小学校低学年の子ども(幼年期)の発達課題と子どもが育つ活動・実践の研究 ②今、子どもが育つ環境はどうあるのか…家庭の問題、貧困(経済的、社会的、人間関係)虐待問題など、それにどう立ち向かうか ③子どもの発達を支援する縦(幼・保・小・大)連携、横(親、地域)の連携のあり方 ④保育所保育指針、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領の改訂で現場はどうなっているのか学習交流	<b>中河原良子</b> 望月彰 山田隆幸 吉田真弓 加藤英子 富岡美織 吉野裕之 田島聖子

7	中学・高校 大学教育	<b>中高大学生の発達と学力の課題は何か？</b> ① 中学・高校・大学の子どもたちの育ちの現状と背景について交流しよう。その上で思春期の育ちにおける課題を、学力面・生活面、一人ひとりのつながりあいに関心を持って合わせながら明らかにしよう ② 子どもたち自身の自治と参加による学校、学年、学級づくりの手だてを明らかにしよう ③ 教職員の共通理解を進める中で、一人ひとりの教職員が力を発揮し、協力・援助しあう学校づくりの手だてを明らかにしよう	<b>浦島 清一</b> 木村勝保 木村久男 宮崎博史 辻本真也 五十嵐俊二 赤城貴紀
8	障がい児 教育	<b>生活と学習の主体者を育てる障がい児教育</b> ① 子どもをどうとらえるか（「問題行動」と内面理解） ② 教育内容をどうつくるのか（基礎的・日常的な生活活動／科学や文化の学習／文化集団活動） ③ 学級・学校・父母集団・地域をどうつくるか	<b>井関 美季</b> 竹田一博 竹沢清 川口慎司 加藤登美子 久保田優美子
9	能力・発達 と評価	<b>子どもたちの学びをとらえる教師のまなざし</b> ① 子どもの発達や評価をめぐる新たな課題の共有 ② 子どもたちの学びに迫り得た実践報告の検討 ③ 子どもへのまなざしを支える教師の専門性 ④ 生活教育実践史における学びのとらえやみとり	<b>谷保裕子</b> 横田文夫 横山尤子
10	教育と 子育て	<b>つながり合って育つ</b> ～子ども、教師、保護者・地域の支え合い～ ① 「子どもたちのしんどさ」に寄り添い、支える ② 「子どもたちの生きづらさ」の捉え方と支援 ③ 学校・家庭・地域がつながり合って支え合う ④ いじめや体罰から子どもたちを守り、育てる取り組みとは	<b>山岡 雅博</b> 春日井敏之 北村和美 荒木寿友 長堂登志子 安原陽平

#### ☆レポート参加について

分科会にレポート参加を予定されている方は、日生連研究部に7月8日(日)までにご連絡下さい。  
 連絡先 田村 FAX: 042-496-3152 E-mail [tamura@icsw.ac.jp](mailto:tamura@icsw.ac.jp)

#### ☆レポート郵送について

レポートを郵送される方は、「日生連大会資料」と明記し、下記までお送り下さい。

送付先 資料等事前送付先

〒572-0002 大阪府寝屋川市成田東が丘 41-13 永田 都 さん宛  
 072-831-8490

#### ☆文化活動実技講座について

・材料費など必要経費をいただくものがあります。当日徴収します。ご承知下さい。

#### ☆大会への問い合わせ

\*研究集会企画 日生連事務局長 和田 仁 042-736-0036 (和光鶴川小学校)

\*大会参加・その他 現地事務局長 井関 美季 090-3925-5792

\*日生連公式 HP <http://nisseiren.jp>

\*大会会場の電通大寝屋川駅前キャンパスには駐車場はありません。公共交通機関で来られるか、ご自身で駐車場の確保をお願いいたします。